

いい子どもが育つ都道府県ランキング

文部科学省の「全国学力・学習状況調査」では、学力調査とともに生活習慣や学習環境などに関する調査も行っています。

学力調査と違い生活習慣や学習環境の調査結果はほとんど報道されていませんが、このたび、(株)共立総合研究所が25年度調査を基に独自の分析を加え、その結果を発表しました。

これは小学校6年生を対象とした11分野46設問を抽出し、各設問について一般常識に照らし最も望ましいと思われる回答の割合を都道府県別に算出し、それを偏差値化したものです。

いわば「子どもの育ちの質」を総合的に評価し、それを「いい子どもが育つ」都道府県ランキングとして発表したものです。

このランキングで埼玉県は19年度が16位、22年度は7位、そして今回25年度4位と総合順位が

上がってきています。

実は、総合順位が上位の県は人口が少ない秋田県、宮崎県、山梨県などが占めており、人口が500万人以上の埼玉県を除く他の都道府県は、20位、24位、28位、29位、38位、45位、46位、47位とすべて中位ないし下位となっています。

埼玉県は現在のところ学力は中位ですが、「いい子どもが育つ」環境は急速に改善中のようです。

例えば「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という設問における埼玉県の子供の偏差値は63.6と極めて高くなっています。

埼玉県では全ての公立小中学校で17年から、具体的な目標を掲げて「学力」「規律ある態度」「体力」の基礎・基本を育成する「教育に関する3つの達成目標」に継続的に取り組んでいます。あくまでも仮説ですが、ひょっとするとその効果が

出てきているのかもしれない。

学校周辺の農地などを活用して農業体験活動を行う「学校ファーム」にも20年から取り

組みを始め、現在では全公立小中学校が実施しています。16年から取り組む「地域ぐるみの防犯パトロール」は全国でも圧倒的な強さです。

これらも子供の地域力を高めることに一役買っている可能性があります。

この調査結果を県内市町村別、さらには学校別にしっかりと分析し「いい子どもが育つ」要因を浮かび上がらせることができれば、さらに「人材」が育ついい環境をつくることができます。

埼玉県知事 上田清司

